

アイヌ語と日本語はどのような似ているところがあるか

(Do the Ainu Language and Japanese have Commonalities)

アグスティン・ヒルシルヴァ / Agustin Gil-Silva

8 2 - 3 7 3 日本語の構造 / Structure of the Japanese Language

1. 始めに

アイヌ人は、北海道に住んでいる先住民である。北海道に行く前に、アイヌに関してあまり知らなかったのので、知りたかった。そのうえ、私は語学や言語に興味を持っているので、アイヌ語を分析したくなった。このプロジェクトでは、アイヌ語と日本語を比べ、似ているところを探そうと思う。もう比べる研究を始めたが、時間があまりなかったのので、違うところに集中した。特に特別であり、直訳できない言葉を探した。しかし、アイヌ人は日本に住んでいるので、日本人と様々な物を交換し、おそらく言葉を借りたであろう。使うデータは、「ニューエクスプレス アイヌ語」という教科書と「アイヌ語 白老方言辞書」という辞書である。データを使い、「アイヌ語と日本語はどのような似ているところがあるか」という質問を答えてみる。

2. アイヌ語と日本語はどのような似ているところがあるか。

2. 1. 文法や文作るなどの同じところは何であるか

最初に文法や文作りに関して書こうと思う。一般に、文の形は日本語の文みみたいだ。どちらも「主語、目的語、動詞」の形がある。そして、形容詞は名詞の前にある。

下記の例では、アイヌの読み方は、「う」以外「う」があるカタカナ（例：ク、ル、など）は小さければ、読むのは子音だけになる（例：ク→k）。

（例1）日：あなたはどこへいくの

アイヌ：エアニ フナクン エ アルパ

（例2）日：偉い神なんだよ

アイヌ：パセ カムイ ネ ルウエ ネ。

アイヌ語の例1では、エアニは主語であり、フナクは目的語であり、アルパは動詞である。アイヌの文は大体この形がある。なお、例2を見れば、形容詞の使い方が分かる。

「パセ」というのは「重い」であり、カムイというの「神」である。それは、日本語と同じである。と言っても違うところもある。アイヌ語では、言葉を加えると、発音は違ってくる。

2. 2. 単語の同じところは何であるか

日本語とアイヌ語は似ている単語が少ない。今まで探した言葉は大体生き物や場所の名前である。生き物の似ている言葉は「トゥナハカイ」と「ラッコ」と「スサム」である。日本語では、その言葉は、トナカイとラッコとシシヤモである。アイヌ人はそのものを大和の人と交換したので、大和はアイヌ語の言葉を習い、使った。そして、アイヌ人から、地名を習った。北海道では、アイヌ語から借りた地名が多い。例えば、札幌や白老はアイヌ語である。白老の言葉は「シラウオイ」であり、意味はアブが多い場所のことである。

2. 3. 文化の違いは何であるか。

アイヌ文化と日本文化は非常に違うが、似てるところもある。どちらも、自然や動物を崇拝しており、魂のことを信じる。しかし、崇拝のことでは、違うところがある。アイヌ人の神は、トナカイや熊や鳥などであり、熊が一番大切な神である。アイヌ人は熊を慣らし、熊を殺した後で、霊送り儀式を行う。そして、生活や考え方も違うことは、言語から分かる。地理や特別な言葉から生活の影響が分かり、言葉の本当の意味から考え方が分かる。例えば、熊はアイヌの生活に大切だから、様々な熊や霊送り儀式に関して言葉が多い。「マラプト」と言うのは霊送り儀式の熊の頭骨である。言葉の意味に関して、例2では、「パセカムイ」の本当の意味は「重い神」であるが、翻訳は「偉い神」ということになる。アイヌ人にとって、重さはいいことでありそうである。

3. おわりに

アイヌ文化と日本文化は大変に違うが、同じなところもある。アイヌ人と大和の人々は取引したので、言葉や文化を借りられた。違うところは文化から分かる、同じところは交流から分かる。アイヌと自然の関係は深いので、アイヌ語では、自然に関して言葉が多いはずである。それで、違う生活があるので、違う考え方があるはずである。

書誌：

「ニューエクスプレス アイヌ語」

「アイヌ語 白老方言辞書」

